

【実施区域・面積】

群馬県県、21ha

【生態系タイプ】

里山林、二次草原・草地

【実施区域の状況】

ススキ草原とミズナラ林の里地里山。野焼きと茅刈りを20年継続し、かつての草原の植生が回復しつつある。また、刈り取った茅は、関東一円の文化財の屋根材として利用されている。

【目標】

生物多様性の豊かな茅場の草地保全、ミズナラ林の保全、次世代への橋渡し、生態系サービスの発掘、社会貢献・地域貢献、活動基盤維持境界を活動目的とする。

【主な活動内容】

春の野焼き、生き物調査、防火帯整備、秋の茅刈り、搬出、ミズナラ林の整備。

【モニタリング計画】

刈り取ったススキの束数をカウントする。

6月～8月に、ルートセンサスにより、ヒメシジミ、アザミ、ヒメジオンの数を記録する。希少種の場合と数を記録する。

【実施体制】

森林塾青水が主体となり、みなかみ町、自然保護協会等と連携し事業を推進する。

**【計画期間】**

2025年9月～2030年3月